

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 (平成 29 年度版)

法人名	特定非営利活動法人 自遊の広場	代表者	理事長 宮内眞	法人・ 事業所 の特徴	○古民家を使い、高齢者が馴染みやすい場づくりを心掛けている ○地域住民やボランティア等、誰もが入りやすい雰囲気づくりをしている。 ○日常生活圏域・とりわけ事業所近辺の濃い人間関係が、良くも悪くも日常生活に反映する。個人情報管理や力関係に気を配る必要がある。
事業所名	すずかけの家	管理者	宮内 眞		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	民生委員	合計
	×	1人	1人	欠員	1人	2人	×	(3)人	2人	7 (10)人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み 結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○評価事業について:本人・家族アンケート或いはそれに代わる方法の実施を検討する	○家族アンケートではなく、日常的に家族のニーズを聞く努力をまずすべきである。		○より多数の非常勤職員が参加、かつ高能率の方法を追求する ○利用者の本音を探る努力を
B. 事業所のしつらえ・環境			○リラックスできる。笑いが絶えない。喧嘩も含め賑やか。 ○家らしくていい。 ○利用者も庭造りをしたり、花を持ってきてくれる。 ○物が多く片付かない(職員)	○(「家らしくていい」という意見もあったが)事業に差支えのないよう、片付け・収納がうまくできるようにする
C. 事業所と地域のかかわり	○「市困りごと相談事業」登録事業者になったのをきっかけに、前回の改善計画をより強力に進める	○利用者希望の増加等を見ると、地域住民に認知されてきたといえよう	○地域とつながる取組みは、地域側・事業者側双方よくやっている。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	(前回より継続) ○とても意義のある問題だが、要員確保が難しい。経済問題も含め、行政等と考えたい。 ○事業所に近い地域から体制づくりをしていく	○自治会活動や地域イベントに参加した。また事業所のイベント等で発信能力が高まった。 ○地域住民からの相談も増えてきている		○「藤野」という日常生活圏域の特徴⇒人間関係の濃さを武器に、いっそう地域に出向くようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	○運営推進会議のメンバーチェンジやより幅広い地域の事例検討等を通して、篠原以外の地域にも目配りしていく	○利用者・利用者以外の住民についての事例検討が行われるようになった。		○運営推進会議がより事業所と情報や認識が共有する方法を追求する。
F. 事業所の防災・災害対策	○利用者家族、地域住民、消防団・自治会と繋がるような防災計画を立てる。	○住民と共に防災訓練を行うことができた。 ○台風時には、実際に避難した。	○地域住民と共に防災訓練をやったのは知っているが、昼間だった。運営推進委員の殆どは、昼は参加しづらい。	○地域住民と共に、運営推進会議のメンバーが、訓練に参加できる方法を考える。